

入学者減少の原因について

1 外的要因

(1) 全国情勢

① 高校生の動向

「改革検討委員会 報告書」でも指摘されているように、社会環境の変化としては、18歳人口の減少により大学全入時代を迎えたことは大きな要因である。また、リクルート社が行った「進学センサス2009」の調査によると、都市部の高校生は「自宅通学圏大学志向」、「ブランド大学志向」、「国公立大学志向」が強くなり、一方、地方の高校生は「都会志向」を持っており、全体的に都市部の大学に学生が集中する傾向が強くなっている。〔別添資料1〕

② 経済情勢

日本経済は平成14年から戦後最長といわれる景気拡張期にあったが、国民所得は平成10年度を100とした時、19年度は100.6とほぼ横ばいで推移している。また、平成19年には米国サブプライムローン問題に端を発した世界的な景気後退にみまわれるなど経済環境は悪化し、特に地方ではより深刻化している。鳥取県の場合、県民所得と国民所得を比較すると、平成10年度は国民所得100に対し87.5であったが、平成19年度には80.6と7.3ポイントも格差が拡大している。そのような影響を受け、「国公立大学志向」や、「自宅通学圏大学志向」が強まっているといえる。〔別添資料2〕

③ 環境系学部・学科の増加

地球温暖化等が社会問題化するにつれ、環境に対する関心は高まり、「環境」関連の学部・学科が全国に次々と誕生した。その結果として、環境系の学部・学科を持つ大学間の競争が激化している。

(2) 県内情勢

① 県民所得

県民所得は開学前の平成12年度が260.3万円であったが、19年度には236.4万円となっており、大きく低下し、また全国平均との乖離も大きくなるなどが（平成19年度数値：全国を100とした場合に鳥取県は80.6）、大学進学への伸び悩みにつながっている。

② 公設民営

授業料等は他の私立大学とほとんど変わらないが、「鳥取環境大学の学費は高い」というイメージが広く伝わっており、公設民営のメリットが実感できていない。

(3) 県内高校生

① 偏差値・ブランド力

県内の進学校から鳥取環境大学に入学する者は、県内入学者のうち20%前後である。歴史が

浅く、また偏差値も高くないため、進学校にとっては目指す大学とはなっていない。

②国公立大学志向

鳥取環境大学改革検討委員会で行ったアンケートによれば、県内の進学校生徒の 73%が受験形態を国公立大学並びに国公立大学併願としている。また、県内進学校生徒の保護者のうち 77%が国公立大学に進学させたいと回答しており、生徒・保護者とも国公立大学への進学希望が非常に強いことが窺える。

③学びたい学問・分野

アンケートによると、4年制大学に進学を希望している高校生（760人）のうち、「鳥取環境大学は進学先の候補となる」と回答した者は全体のわずか4%の32人であった。（「候補とならない」72% 545人、「わからない」24% 183人）

「候補とならない」と回答した生徒のうち「学びたい内容の学問・分野がない」を選択した者は422人であり、約8割の生徒が鳥取環境大学には学びたい内容の学問・分野がないと思っている。〔別添資料3〕

2 内的要因

①就職関係

開学当初は、県・市等の門戸がひろがり「公務員になりやすいのではないか」という期待もあったため、多くの志願者を集めた。しかし、県・市の職員募集人数も限定され、加えて「環境」と就職が直接に結びつきにくいことなどから、鳥取環境大学への就職に対する期待感は薄れてしまった。そのうえ、経済情勢の停滞が続く中で、地元大学より都市部の大学が就職には有利であるとの意識が働き、本学への進学を躊躇する傾向が続いている。

②立地条件

鳥取環境大学は鳥取市内に位置していることから、県西部及び中部の高校生にとっては通学が困難であり、県外の大学に進学しても費用にほとんど差が生じないという、県内大学としての位置的メリットが認識できない。〔別添資料4〕

③地元の理解

高大連携や出前授業、公開講座など地域と連携した活動は実施しているものの、歴史も浅く、地域から広く理解を得るまでには至っていない。

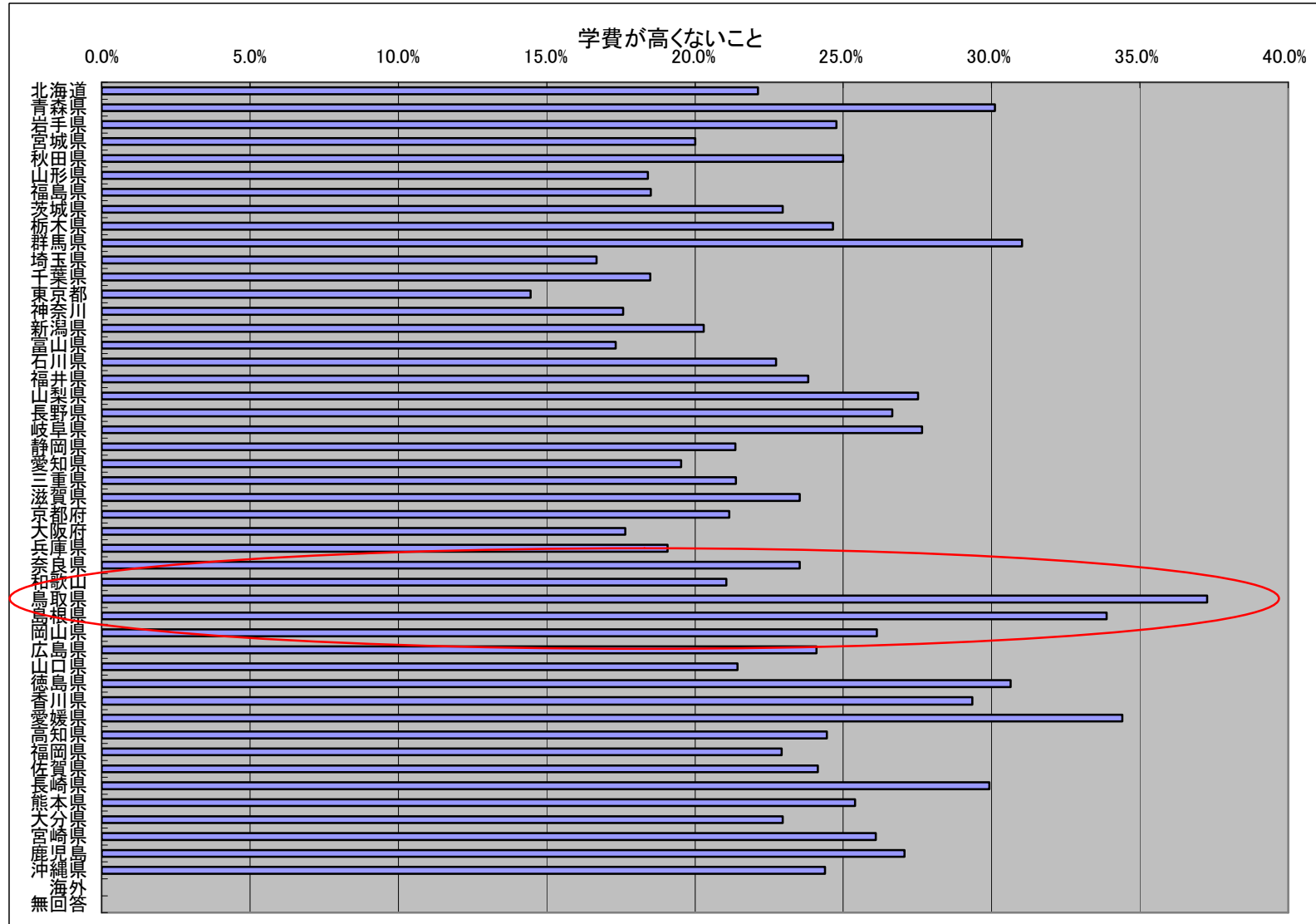
志望校検討時の重視事項 (リクルート社「進学センサス2009」より)

①「学費が高くないこと」を重視するのは鳥取県がトップ

●志望校検討時の重視項目

○「学費が高くないこと」を重視する生徒の割合は、鳥取県がトップ

※県別調査対象者総数に占める回答者の割合がどれだけかを示した表



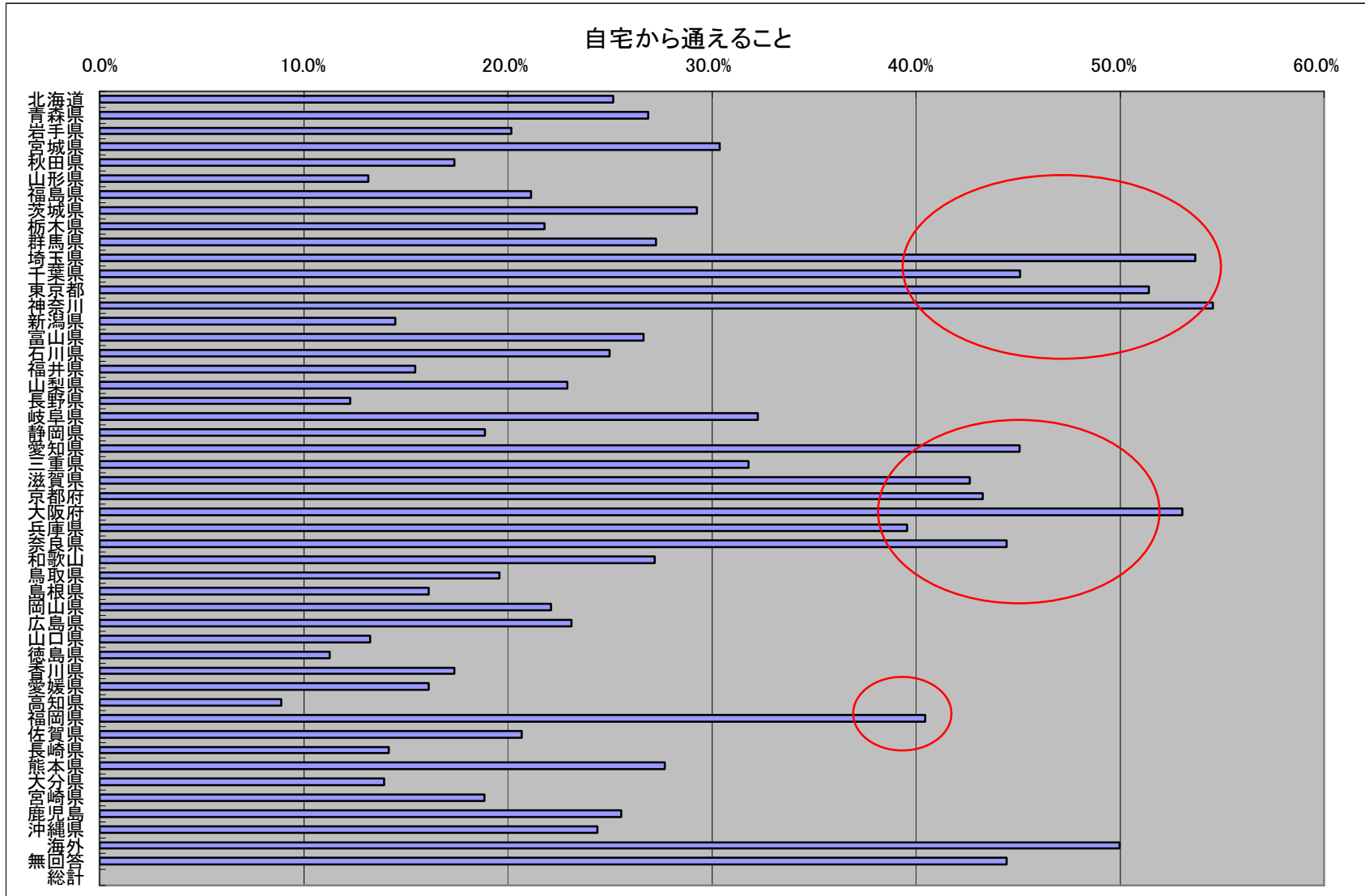
志望校検討時の重視事項 (リクルート社「進学センサス2009」より)

②「自宅から通えること」を重視するのは「首都圏・都市圏、関西圏に多く、地方は少ない

●志望校検討時の重視項目

○「自宅から通えること」を重視する生徒は、「首都圏・都市圏」「関東圏・関西圏」に多く、地方は少ない。

※県別調査対象者総数に占める回答者の割合がどれだけかを示した表



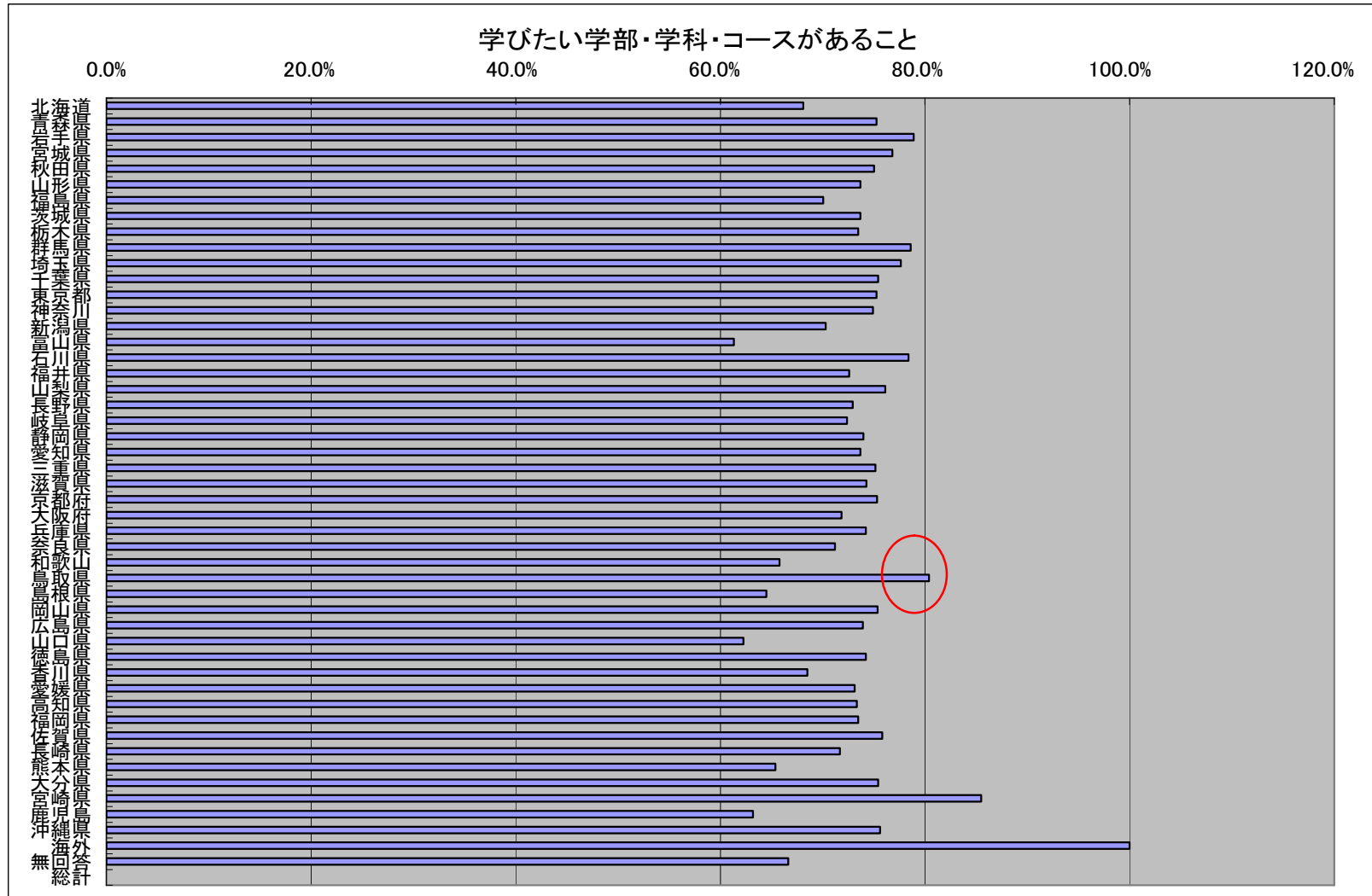
志望校検討時の重視事項 (リクルート社「進学センサス2009」より)

③「学びたい学部・学科・コースがあること」を重視する比率は、鳥取県が高い

●志望校検討時の重視項目

○「学びたい学部・学科・コースがあること」を重視する生徒の比率は全体的には高いが、鳥取県が他県に比べても高い。

※県別調査対象者総数に占める回答者の割合がどれだけかを示した表



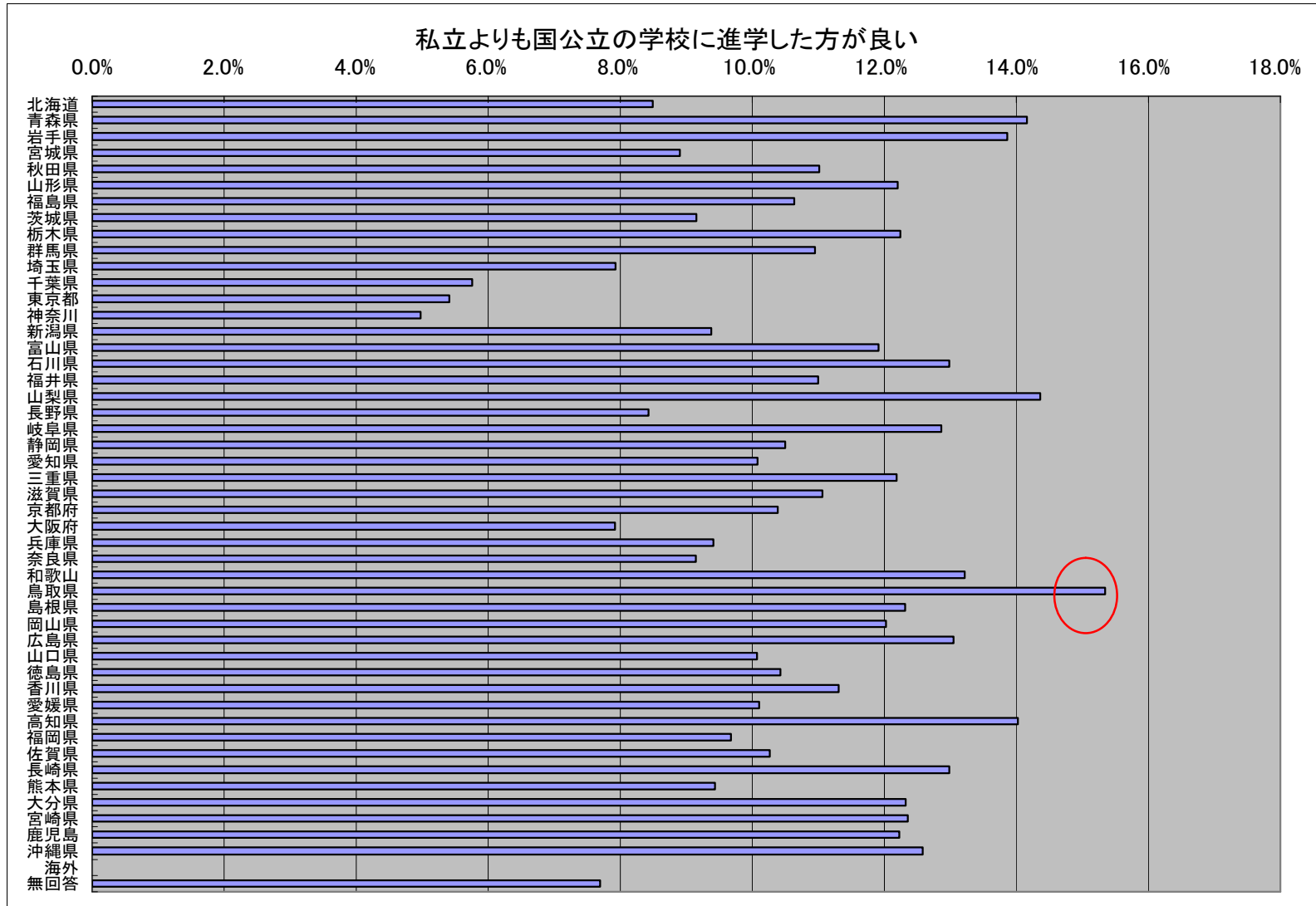
志望校検討時の重視事項 (リクルート社「進学センサス2009」より)

④「私立よりも国公立に進学したほうが良い」と指導を受けた生徒の割合は鳥取県が高い

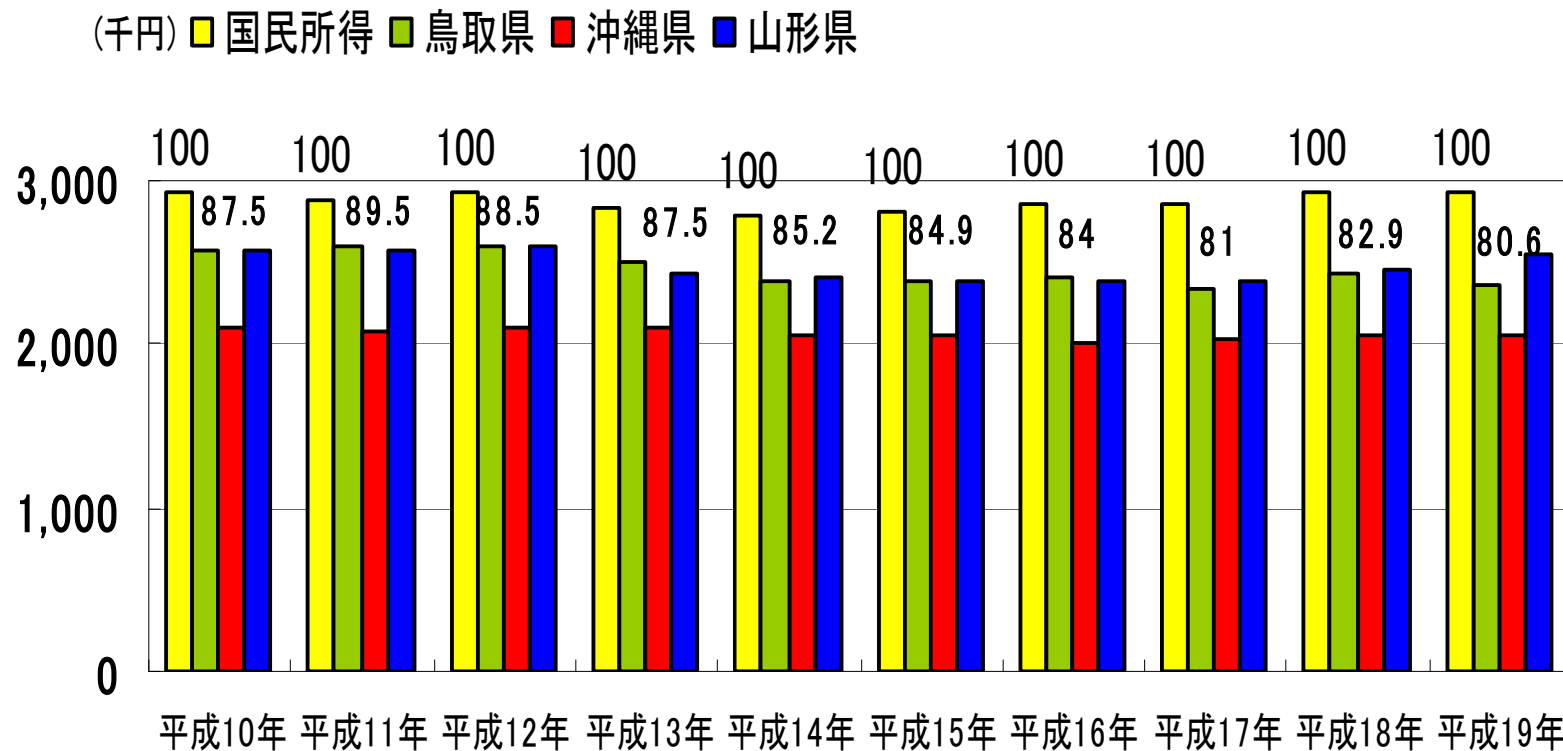
●高校で受けた進路指導内容

○「私立よりも国公立の学校に進学したほうが良い」と進路指導を受けた生徒の割合は、鳥取県が最も高い。

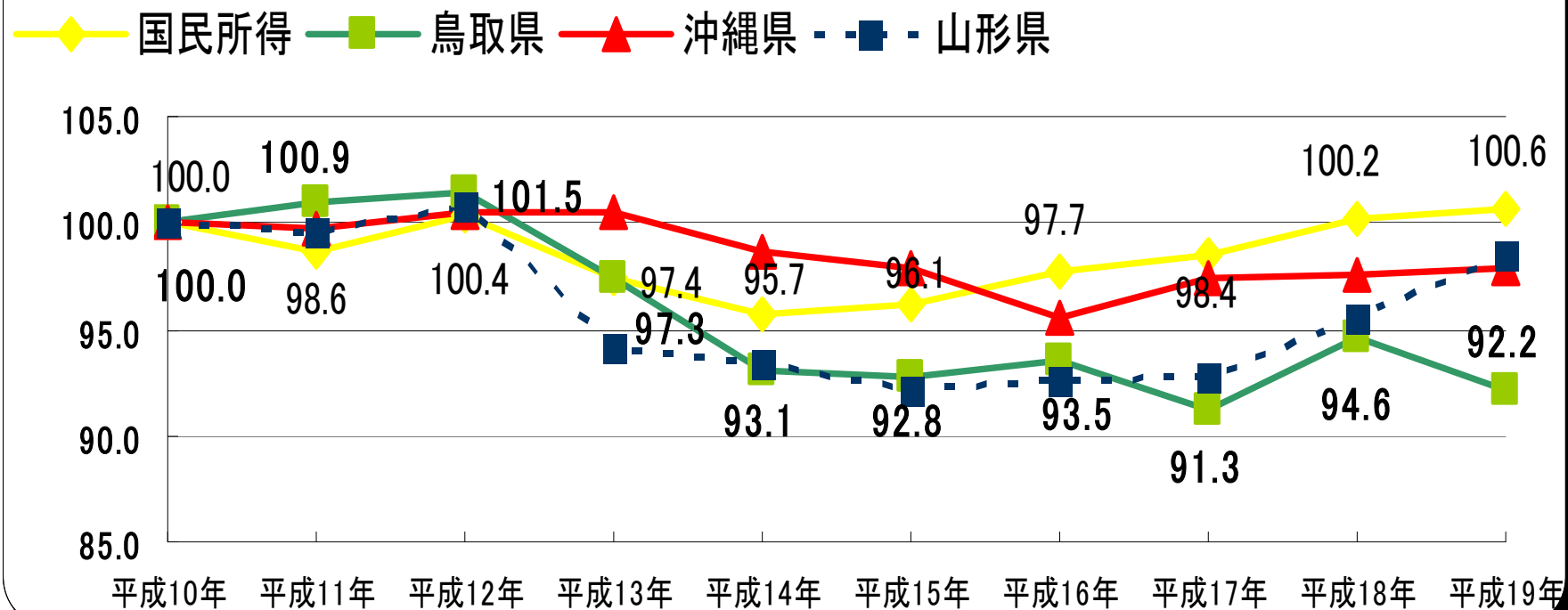
※県別調査対象者総数に占める回答者の割合がどれだけかを示した表



県民所得の推移



県民所得の推移（平成10年=100）

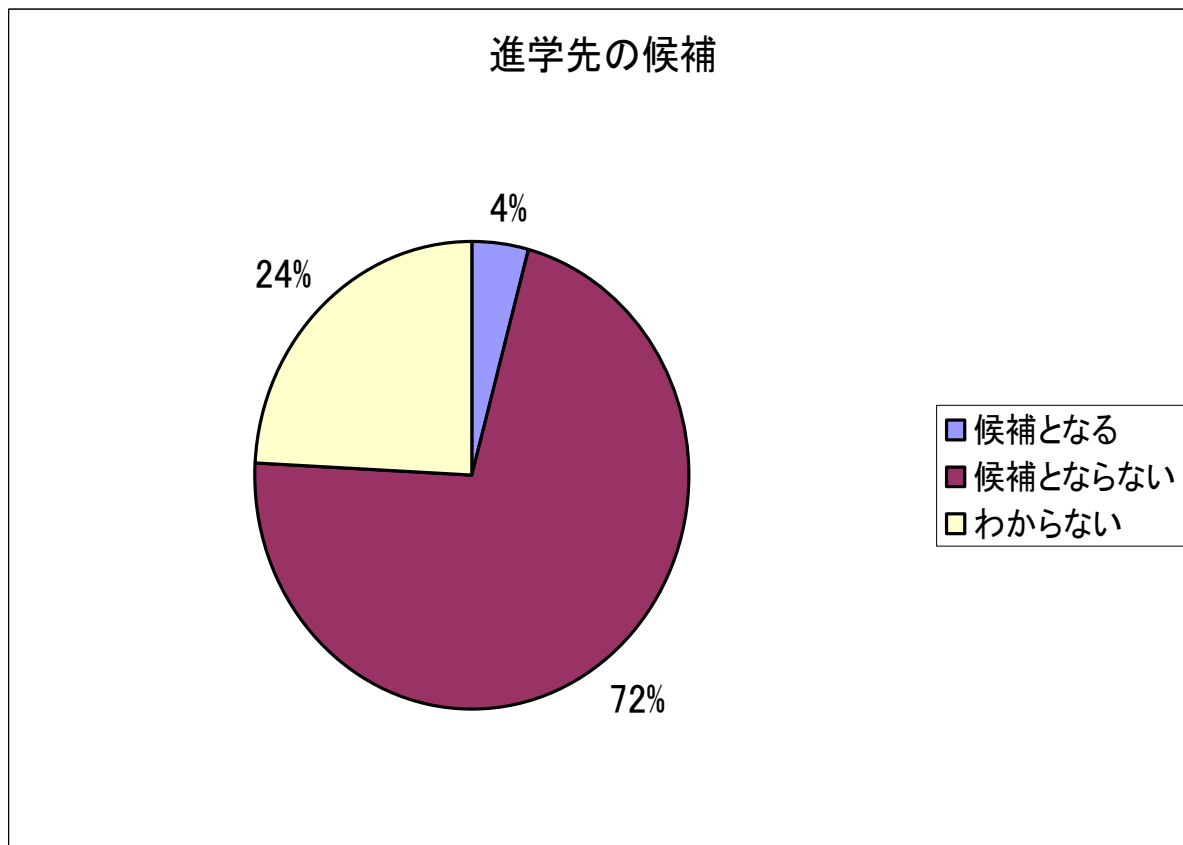


【4年制大学進学希望者のみ質問】

〔別添資料3〕

問4-(5)① 鳥取環境大学は進学先の候補となりますか。

	候補となる	候補とならない	わからない
進学先の候補	32	545	183



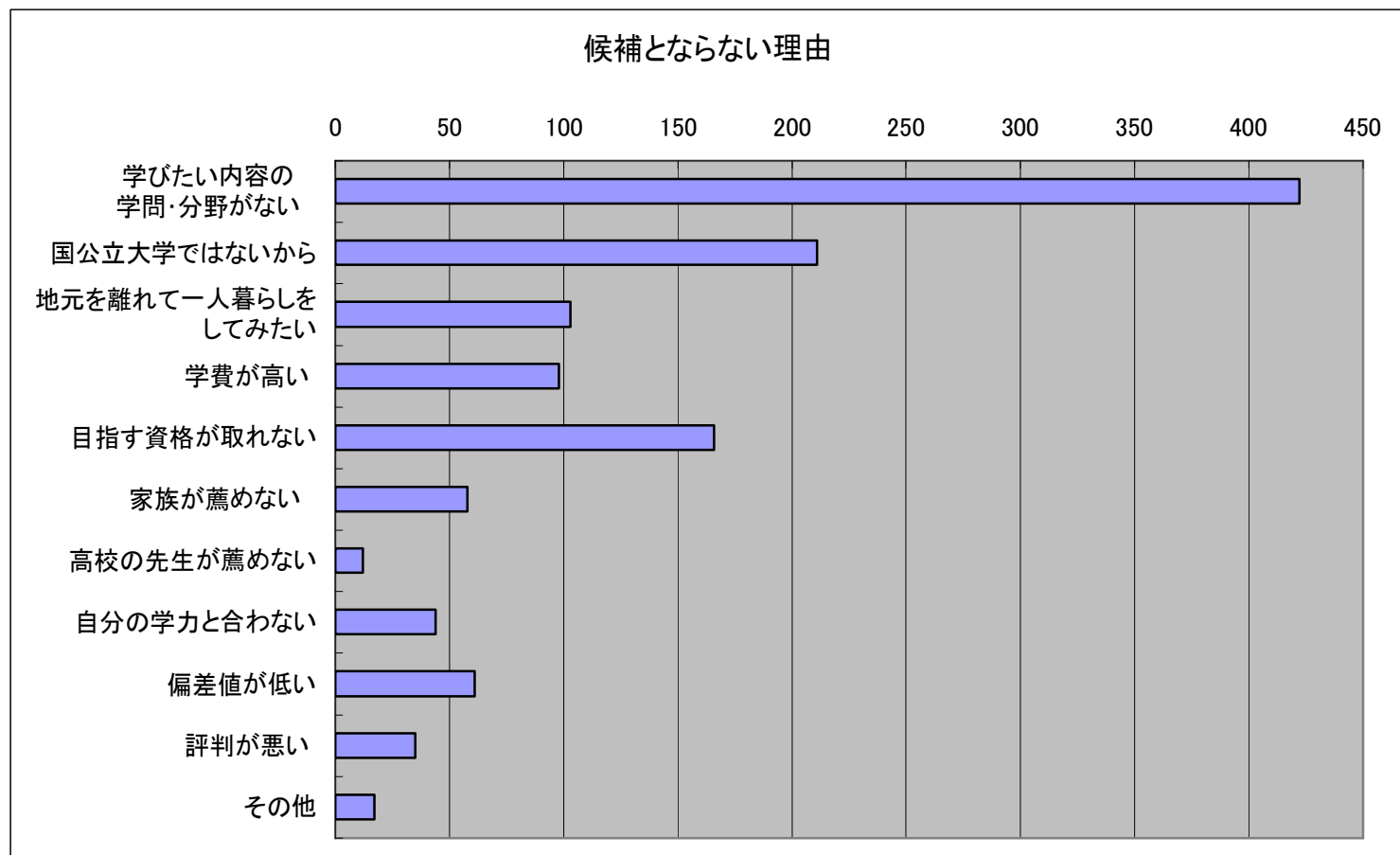
【コメント】

・全体の72%が、鳥取環境大学を進学先として考えていない。

【4年制大学進学希望者のみ質問】

問4-(5)④ 問4-(5)①の間で「2. 候補とならない」を選択された方にお聞きします。それはどのような理由からですか。

	学びたい内 国公立大	学費が高い	目指す資格 家族が薦め	高校の先生 自分の学力	偏差値が低 評判が悪い	その他					
候補となら	422	211	103	98	166	58	12	44	61	35	17

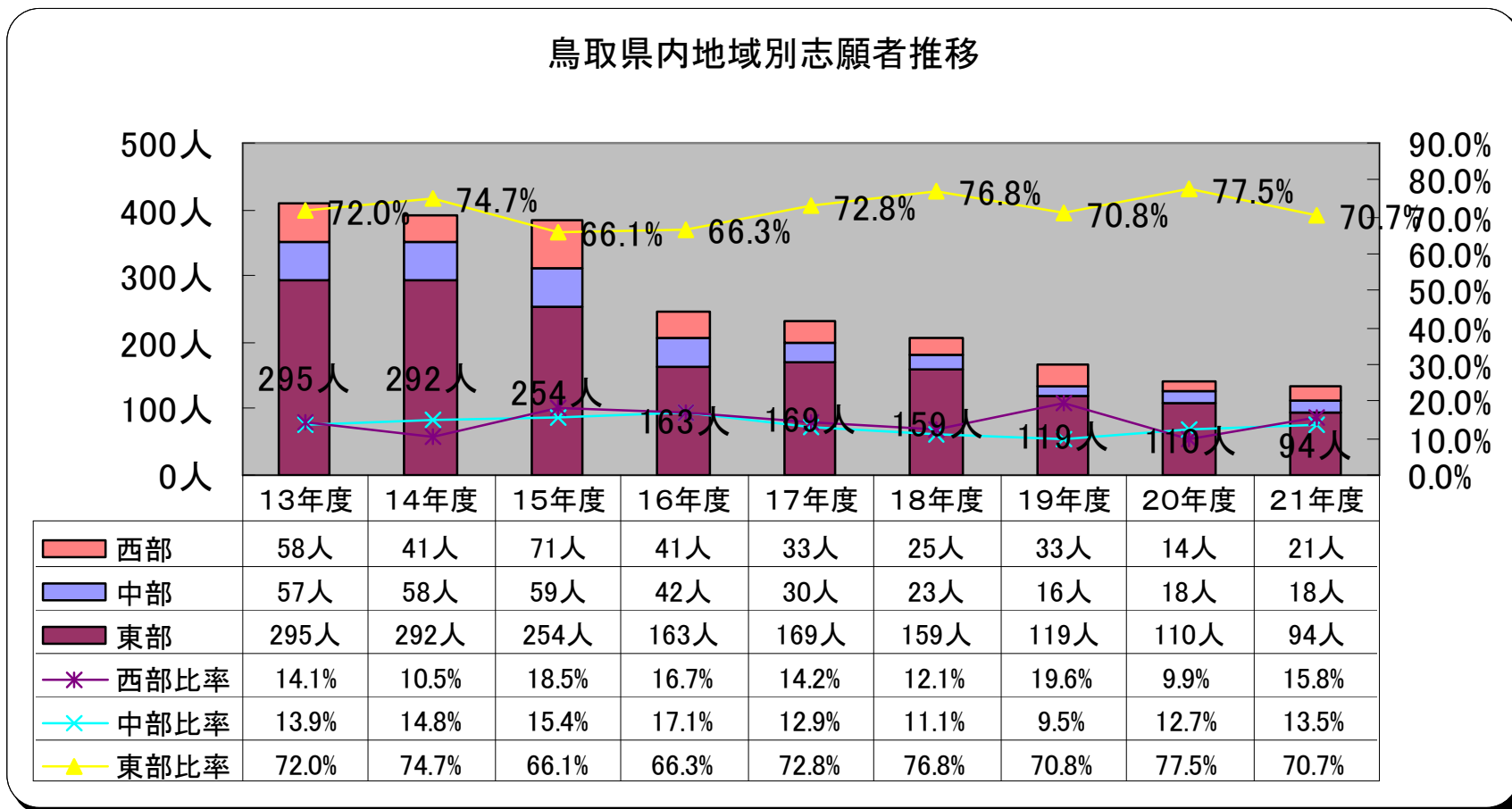


【コメント】

・「学びたい内容の学問・分野がない」ことが、鳥取環境大学を進学先には選ばない大きな理由。「国公立でない」「資格が取れない」ことも理由のひとつ。

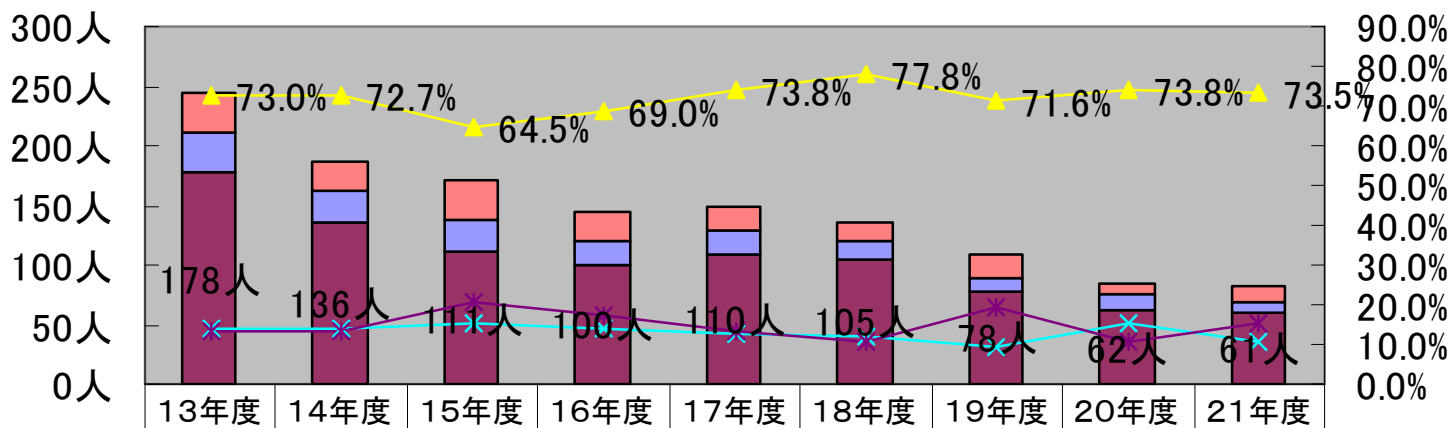
鳥取県内地域別志願者推移

[別添資料4]



鳥取県内地域別入学者推移

鳥取県内地域別入学者推移



	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
西部	32人	25人	35人	25人	20人	14人	21人	9人	13人
中部	34人	26人	26人	20人	19人	16人	10人	13人	9人
東部	178人	136人	111人	100人	110人	105人	78人	62人	61人
西部比率	13.1%	13.4%	20.3%	17.2%	13.4%	10.4%	19.3%	10.7%	15.7%
中部比率	13.9%	13.9%	15.1%	13.8%	12.8%	11.9%	9.2%	15.5%	10.8%
東部比率	73.0%	72.7%	64.5%	69.0%	73.8%	77.8%	71.6%	73.8%	73.5%